

ホームID	ホーム名	法人名	評価日
2526	京都ゆうゆうの里	一般財団法人日本老人福祉財団	H28.11.1
評価機関	特定非営利活動法人 あい・ライフサポートシステムズ		H28.12.6

評価結果

スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価
1.1.1	A	A	2.3.4	A	A	6.2.1	A	A
1.1.2	A	A	2.3.5	A	A	6.2.2	A	A
1.1.3	A	A	2.3.6	A	A	6.2.3	A	A
1.1.4	A	A	2.3.7	A	A	6.2.4	A	A
1.2.1	A	A	2.3.8	A	A	6.2.5	A	A
1.2.2	A	A	2.3.9	A	A	6.2.6	A	A
1.2.3	A	A	2.3.10	A	A	6.2.7	A	A
1.3.1	A	A	2.3.11	A	A	6.2.8	A	A
1.3.2	A	A	2.4.1	A	A	6.2.9	A	A
1.3.3	A	A	2.4.2	A	A	6.3.1	A	A
1.4.1	A	A	2.4.3	A	A	6.3.2	A	A
1.4.2	A	A	2.4.4	A	A	6.3.3	A	A
1.4.3	A	A	2.4.5	A	A	7.1.1	A	A
1.4.4	A	A	2.4.6	A	A	7.1.2	A	A
1.4.5	A	A	3.1.1	A	A	7.2.1	A	A
1.4.6	A	A	3.1.2	A	A	7.3.1	A	A
1.4.7	A	A	3.1.3	A	A	7.3.2	A	A
1.4.8	A	A	3.1.4	A	A	7.3.3	A	A
1.5.1	A	A	3.1.5	非該当	非該当	7.3.4	A	A
1.5.2	A	A	3.1.6	A	A	7.4.1	A	A
1.5.3	A	A	3.1.7	A	A	7.4.2	A	A
2.1.1	A	A	4.1.1	A	A	7.4.3	A	A
2.1.2	A	A	4.1.2	A	A	7.4.4	A	A
2.2.1	A	A	4.1.3	A	A	7.4.5	A	A
2.2.2	A	A	4.1.4	A	A	7.5.1	A	A
2.2.3	A	A	4.2.1	A	A	7.5.2	A	A
2.2.4	A	A	4.2.2	A	A	7.5.3	A	A
2.2.5	A	A	5.1.1	A	A	7.5.4	A	A
2.2.6	A	A	5.1.2	A	A	7.5.5	A	A
2.2.7	A	A	5.2.1	A	A	7.5.6	A	A
2.2.8	A	A	5.2.2	A	A	7.5.7	A	A
2.2.9	A	A	5.2.3	A	A	7.6.1	A	A
2.2.10	A	A	5.2.4	A	A	7.6.2	A	A
2.2.11	A	A	5.2.5	A	A	7.6.3	A	A
2.3.1	A	A	6.1.1	A	A			
2.3.2	B	B	6.1.2	A	A			
2.3.3	A	A	6.1.3	A	A			

【評価機関の所見】

1. 優れた取り組みと思われる点

スケール	所 見
1-3-1	当ホームではパソコンを活用し、情報の共有を図るためのシステム化に努めています。ホーム独自の「ガールーンメールシステム」にて、職員個人がアカウントを持ちパソコンのメールを活用することで、社内の情報を共有することができる仕組みが整っています。職員は随時メールでマニュアルや社内報、介護保険を含む情報、法人が実施する研究発表、スケジュール管理などを閲覧しています。又、スタッフルームにはマニュアル本が設置されており、更に職員の資質向上に努めています。
2-3-3	年度ごとに「各種委員会組織図」を策定しています。事故ゼロ委員会・接遇委員会・提案委員会を2ヶ月に1回開催し、各課ごとに受けた苦情等を管理者へつなげ、検討する仕組みが整っています。更に、サービスの質の向上に向けた取り組みとして、抽出した課題をテーマとして部署全体で改善研究に取り組み、その研究結果を発表する場として「実践研究発表会」を年に1回法人7施設が集まり開催しています。この研究発表を実施することでホームが一丸となって課題の解決に取り組み、入居者の意向を尊重した「本人本位」の質の高いサービス提供へとつなぐことができている様子が伺えます。
4-2-2	当ホームでは毎年の定例行事に加えて、月ごとの行事を実施しています。更にアンケート調査を行い入居者の意向を確認して企画に活かしています。毎月「レク会議」を開催し、自立の方、要介護認定を受けている方、それぞれに年間行事計画を策定しています。又、入居者の意向を踏まえたバスツアーやハイキングに加え、地域で開催される祭りや近隣の学校との交流なども企画に盛り込むことで地域とのかかわりを大切に、地域に根ざしたホームとなれるよう取り組んでいます。介護棟では一人ひとりの身体状況を把握し、それに基づいた個人ごとの月間予定表を作成することで、できるだけアクティビティに参加できるよう配慮しています。このことは、アクティビティ企画書や写真入りの報告書で確認することができました。
5-1-1 1-5-1 1-2	食事アンケートを年に1回実施すると共に、3ヶ月に1回「食事懇談会」を開催して入居者の意向の把握に努めています。検討内容は運営連絡会で報告し、議事録はホーム内にも掲示されています。更に入居者一人ひとりの嗜好を把握し、一覧表に纏めることで、どの課の職員も情報を共有並びに提供することができる「入居者に対する嗜好の情報共有サービス」を実施しています。又、残量チェックの結果をタブレットに入力し、食事サービス課へ情報提供を行うなど情報の共有を図っています。選択メニューの他に和食弁当や洋食弁当、季節の弁当が企画されており、旬の食材を活かした料理の提供を行うことで、入居者の食への意欲や食事の楽しさが味わえるような取り組みがされています。
7-5-7	入居者に認知症の理解を深めていただく取り組みとして「認知症予防プログラム」があり、専門医の研修会や「はつらつ脳トレ講座」、「脳の健康診断（ファイブ・コグ検査）と説明会」がそれぞれ毎月開催され、40名ほどの入居者が参加されています。毎月発行される機関誌「あじろぎ」でレクリエーションや催しを発信、「いきいき音楽の会」と称した音楽療法も実施されています。更に、一般棟の入居者が介護棟を訪問して絵本の読み聞かせを行う「絵本の会」が開かれています。この取り組みは入居者の提案から始まったもので認知症の方と交流する機会を持つことで、認知症への理解を深める取り組みとなっています。
7-6-1	ホーム敷地内に診療所が併設されています。又、外部の医療機関とは「医療協力協定書」で協力体制が構築されており、内外の両面で充実した医療体制が整備されています。診療所の医師が紹介状を書き、職員が付き添って病院受診を行うことで入居者の安心につながっています。更に診療所には9床の入院設備が整っており、医師と看護師が夜間を含めて常駐しています。又、退院時病院から直接介護居室に戻るのではなく、一旦診療所入院することで入居者の病状の把握に努めると共に、入居者本人の意向を踏まえ、安心して療養ができる仕組みも整っています。このように医療と綿密な連携体制が構築されていることで、入居者並びにその家族の安心感につながり、入居者本人の尊厳や思いを尊重した暮らしが最後まで継続できる仕組みとなっています。